



Botswana Medical Information



2019年3月

【報道記事抜粋】

●保健大臣はフランシスタウンのニャンガブエ紹介病院を訪問し、公的医療制度の成功には、民間セクターの関与が重要である旨述べた。民間セクターが関与する領域として、腫瘍外科や小児血液内科等の希少な専門分野があげられる。また医療過疎地域では外科や産科、医療サービス向上のため、放射線科、マネジメント部門なども民間セクターと協力することが検討される（4日ディリーニュース）。

●2019/2020年保健省予算案

2019/2020年予算として、保健大臣は議会にて、経常予算76億プラ、開発予算5億9千400万プラを請求した。63億プラは、政府のすべての医療機関と中央薬剤倉庫、検査室の運用、医療サービスマネジメントに充てられる。開発予算の99.93%は病院サービスとプライマリケアサービスに割り当てられ、病院サービスとして、シャカウエ、モシュパの2つの新たな病院建設と、グマレ、トゥトゥメ初等病院のスタッフのための住居建設に利用される（8日ディリーニュース）。

●不可思議な病気がサラジェの生徒達を襲う

Letlhakeng 当局はSlaljwe のLempu 中等学校にて120人以上の生徒が、足のしびれや筋力低下を伴う原因不明の病気に襲われたとの報告を受けた。病気は主に寮生に発症し、多くは女生徒である。月曜日に3名が発症し、地元のクリニックを受診したが、原因が不明であり、火曜日には14名が報告され、水曜日には45名となった。発症した生徒は腰より下がふらつき、ひざの痛みと足のしびれを訴えた。ディストリクトコミッショナーは、原因の究明と生徒への援助を伝え、自宅へもどっている生徒に対しては、スコティッシュリビングストーン病院で診察を受けるように促した。病気が伝染性の可能性を考慮し、隔離する必要性も伝えた。当局はすべての生徒をスコティッシュリビングストーン病院へ搬送することを決めた（8日ディリーニュース）。

●Lempu 中等学校が閉鎖

原因不明の病気の蔓延により、119人（117人女性、2人男性）のLempu 中等学校の生徒が入院した病院に初等教育大臣が訪問し、3月17日まで学校を閉鎖することを決定した。一部の人々の間ではヒステリーが原因といわれているが、保健大臣は様々な医療職種からなる緊急対応チームが、根本原因について捜査中だと述べた。病院関係者は、一部

の生徒は改善しており、身体活動に従事させることが改善に役立っているようだと述べた（8日ディリーニュース）。

●政府は Lempu 中等学校生徒の回復を約束する

保健省関係者が水曜日に、学校の生徒や家族に向けて話したところによると、今回の事案に関しての原因は不明であり、神のみが知るところだが、生徒達が安心して学校へ戻るには、祈りが重要であることを伝えた。家族に対し、起こったことを振り返るのではなく、平静の心で学校へ戻れるように愛情を持って接するべきと伝えた。学校の安全を守り、生活環境の改善に努めると述べた。校長によると、126人の生徒は病院より退院し、家族とおり、目の異常を訴えていた2名も改善したと述べた。寮施設は、当初の予定より334名過剰であることも訴えた。（18日ディリーニュース）

●ボツワナは中所得国として、末期の腎不全患者に対して治療を提供する責任があると、保健大臣は世界腎臓の日と腎臓ケアインスティテュート（RCI）（民間の透析施設）のオープニングの際に述べた。官民がパートナーとなることで、腎臓病の治療にアクセスしやすくなり、価格も手が届きやすくなると述べた。2009年以前には、治療は緊急の腹膜透析に限定され、少数の患者が南アフリカへ血液透析のため搬送されていたが、莫大な費用がかかった。2009年に初めて官民パートナーシップによるRCIの透析ユニットがプリンセスマリナ病院に設置された。これにより1000人以上の患者に関わり、現在約150人に透析を提供している。臓器移植制度により腎不全患者がインドで移植を実施されてくることは喜ばしいと述べた（18日ディリーニュース）。

●ザンベジモーターズはボツワナにて移動式クリニックの組み立てを行う

ザンベジ社のザンベジモーターズは、ボツワナにてオーダーメイドのハイテク移動クリニックを組み立てる。最初の移動クリニックは作成に10週間かかり、タンザニアに送られる。移動クリニックは太陽発電と発電機にて1週間の利用が可能で、冷蔵庫も完備する。今後は災害用バスも製造することを想定しており、20人の座位用患者、10-15人のストレッチャー患者、後部に医療用の部屋を設置。また油圧式ストレッチャーや車いすの昇降機等を追加することが可能。（1日 メヒ）

過疎地域では恒久的なクリニックは不可能であり、移動式クリニックはこのような地域の人々へ医療を提供する。移動式クリニックはUSAIDの援助のもと、聴力視力テスト、安全な割礼、血圧チェック、結核やHIV検査を行う。マラウイへ装備の充実した救急車2台が送られる。（25日ディリーニュース）

文責：高原 野草（在ボツワナ日本大使館医務官）